**歳神様（歳徳大善神）の書式と曹洞宗**

永平寺を開かれた道元禅師が吉峰寺にお住まいの時、寺下の家から年越し蕎麦の接待を受けた、そのお礼に、明日は元日ということで「歳徳大善神」と板書きをされ家宝とした。後に多くの信者の希望もあり版木として布施をしたと伝えられている。特徴として歳徳神は、その年の福を包んで持ってると伝えられ、家が福で包まれるようにと、年の字を丸く書き、上方に星祭り（九曜星）の代表である太陽と月の日天子・月天子を書き、下方両脇より七難即滅七福即生の七福神（財宝を持ち込む恵比須・大黒・布袋、健康長寿の寿老人・福禄寿、勝負に勝る毘沙門天、家庭円満の弁才天）、仏法の守護神とされる八将神（須弥山の守護神である梵天・帝釈天、須弥山の四方を守る持国天・増長天・広目天・多聞天の四天王、山門の守護の仁王）を書き込み、全ての福を集めたものとなります。また、その年の福を司る恵方神でもあります。

自宅の神棚または仏壇の近辺に飾ってください。

この1年が皆様御家族にとって良き年であることを祈願いたします。

龍泉寺住職　勝典合掌